

バハイ担当世界平和大学講座について

ジョン・ハドルストン、国際通過基金専務理事室副室長

<概要>

米国メリーランド大学付属の国際開発・紛争抑止センターは、最近、バハイ担当世界平和講座を設けましたが、私はその講座の代理として日本を訪れることになりましたので、この大学講座の意義と機能、また、バハイ共同体一特にバハイ学者一との関連について話してみたいと思います。

まず、この講座の意義は、大きく三つに別れています。1) バハイ信教は研究する価値のあるもの一特に宗教としてだけでなく、世界平和を築くにあたって具体的に貢献できるものとして一学者の認識を得始めていることを示しています。2) この講座が設立されている場所とタイミングは両方とも意義があります。というのは、メリーランド大学は、世界最大の権力を持ち、また、小平和を最大平和へ導く宿命にある国一アメリカ合衆国一の一の首都の近くにあるので、その指導者達と協議するのに便利であります。設けられたタイミングも、世界平和を40年間妨げた冷戦の終焉直後で、国家間の戦争がなくなるとアブドル・バハが予言した2000年の真近かである点でも、非常に意義があると思います。3) この講座の設立は、バハイによって進められたから可能になったのでなく、バハイでない、著名な平和学者エドワード・アザー教授が提案されたからでした。1988年にアザー先生がこのメリーランド大学の国際開発・紛争抑止センターを創立されたばかりの時に、万国正義院の「世界平和への確証」を読まれ、感銘を受けられたので、万国正義院にこの講座を当センターに設ける提案をされたのでした。1993年にやっとその提案が実現したのです。

この講座の理事会は7人からなり、そのうちの5名は米国のバハイ全国精神行政会によって任命され、他の二人は大学が任命することになっています。この講座を教える教授の候補者リストは、当全国精神行政会が用意することになっていますが、それには条件が二つあります。一つは、適切な学歴などを有するというもので、もう一つは、バハイの共同体内で相当の身分のある人ということです。後者は、大学側が提案した条件でありますが、バハイに敵意を持つ者がこの講座を教えることを防いでいます。

この講座の機能は大きく三つに別れています。1) 紛争の原因と平和を保つ解決方法に関連したバハイの書物に関する研究や授業やセミナーを設けることです。2) 「世界平和への確証」にあげられている各問題を一一般の人々が討議できる場を提供することです。3) 平和学の学術的プログラムを持っている組織と連絡を取り、場合によっては、こうした研究ができるように、技術的援助を提供することです。

1993年4月の設立以来、この講座は大きな成果をあげてきました。財政的な土台も確保されつつあります。また、バハイ学者がこの講座を援助するように、励みの言葉と留意すべき点もこの報告には含まれています。最後は、バハイ学者に対しての注意一謙遜な態度を持つべきこと、過剰で批判的な競争を避けること、自分がバハイ学者として人類に奉仕すべきこと、などで終わります。